

# デジタルとの自律共生

# AIがもたらす自動施工の 展開・課題・憂鬱

*review*

## review

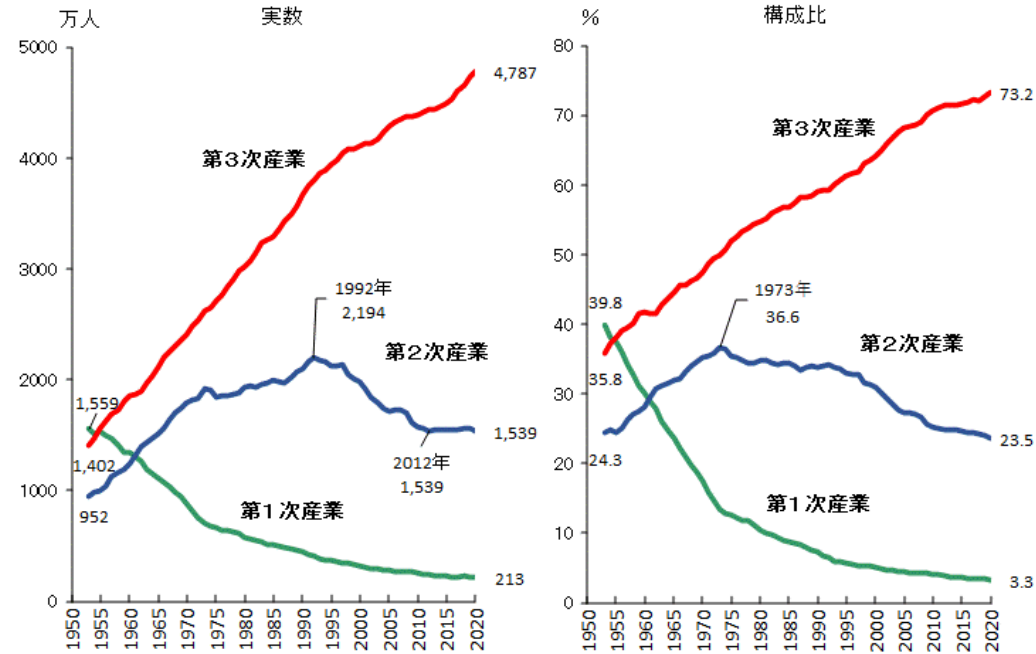
- ▣ 一連の作業の困難さ
- ▣ 求められる仕事の質という問題
- ▣ 人と一緒にはたらくときの問題
- ▣ ロボットのことを考えた建築構法を考える

感想：今のロボットは割とわがままで、人が関わらないとできないことが多い。

“

ブルーカラーの仕事が大多数であった時代から、  
ホワイトカラーが多数となる時代へ変遷し、  
**AI**の台頭によって再度ブルーカラーの時代へと...

# 産業別就業者数の推移



(注) 1953～2020年の各年データ。構成比は産業不詳の就業者を除く。

(資料) 労働力調査

## グラフより

- ▣ ある時期を境に1次+2次産業と3次産業の就業者数が逆転する
- ▣ 1次+2次産業の就業者は縮小しつつある現状
- ▣ 3次産業は増加傾向

今後は、3次産業がAIに置き換わる可能性があれば、  
1次+2次産業に人が戻ってくるかもしれない。

## New collar

仕事がAIに置き換わると、人が自由に動ける時間が増えて、クリエイティブな仕事に時間を裂けるようになる。

AIではできない仕事が新たに生まれていく。

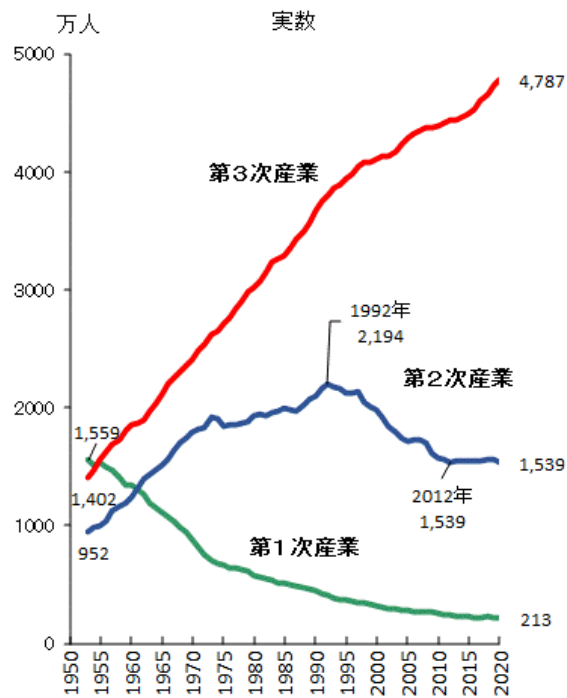
と、巷ではよく言われる。いわゆる第四次産業。

情報通信・医療・教育サービスなどの知識集約産業。

世間の論調的には新たにブルーカラーの時代が来るのではなく、新しいカラーが出てくると予想している。

自分は筆者の論は興味深く、割と同意できる。

## 個人的予想



第4次産業



## reason

- ▣ 約10-20年後には3次産業がAIに置き換わり減り始める。
- ▣ そのころには、4次産業がある程度増える。
- ▣ しかし、4次産業に求められるスキルは高く、ある一定の水準まで伸びた後、伸びは停滞する。
- ▣ それに対して、2次産業ではロボットに対応した環境を用意しなければならず、AIの普及は進まず、柔軟な対応を人間がするために、2次産業側で人手不足が起きる。
- ▣ 結果、2次産業の就業者数は増加する...

## まとめ

- 時代が進むにつれて、職業の求められるスキルはどんどん難しくなっていくと思う。
- 放っておくと、労働者の大半は職業の発展についていけなくなってしまう。
- そうなる前に、社会側からスキルを磨きやすい環境にする必要がある。
- さもないと、
- 1次、2次産業の時代がまたくるかもしれない。
- それはなんかAIに使われてる感じで...
- AIとの共生は単に技術の問題ではなく、  
社会全体の構造を見直す大きな契機。

